“換気の老舗”が贈る新給排気システム

鎌倉製作所

作業空間の快適化から 本質的な生産性向上を

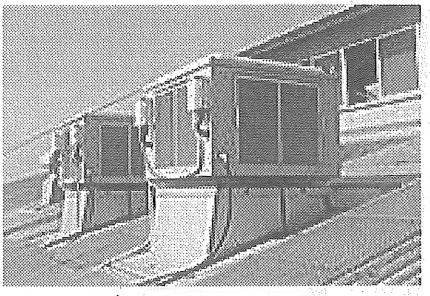
昭和二十五年(1950年)の創業以来、一貫して換気製品開発に注力、当該分野の老舗メーカーとして知られる鎌倉製作所(社長=堀江威史氏、本社・東京都港区北青山)。定番ともいえる換気装置の応用製品として、同社が現在、強化・育成に取り組んでいるのが、気化放熱式涼風装置「クールルーフファン」、帯電性中性能フィルタ搭載の給気ユニット「クリーンファン」など。産業用換気装置市場で培った技術をベースに、従来の換気だけでなく、除塵(じん)など、空気調和の他の要素を取り込んだ製品を開発、単品での販売のほか、従来からの給排気装置と組み合わせ建物(工場)全体の空調デザインを可能とさせるなど、提案の幅が一挙に広がっている。換気の専業メーカーで止まっていては、新興工業国にいずれ追いつかれ、そして追い越されるとの危機感から、同社は、自社技術をベースとした製品の付加価値性向上を進め、これまでに、クールルーフファン(前出)、クールクリーンファンのほか、蒸気または温水を熱源とする屋内設置型の「ユニットヒータ」などを充実させ、提案方法も従来の換気計画コンサルから空調計画まで対応可能な状況となっている。

新製品群の販売状況について、同社マーケティング室の熊切勝夫室長は「クールクリーンファン、クールルーフファンのいずれも販売は増え続けている。ただ、伸び率は当初予想していたものより若干鈍い。この背景・原因はある程度はっきりしている。製品の認知度は高まっており、実際に受注・引き合いの件数は増加している。ただ、工場側も、生産が拡大する中で様々な追加投資が発生しており、それが生産ラインの変更等であれば、空調負荷の内容も変わるため、当初予定が遅れるケースもある。また現在は、世界的な関心事である温暖化対策=CO2排出削減にプライオリティが与えられていることも多少なりとも影響を受けている」と話す。

◇

鎌倉製作所は今回、「HVAC&R JAPAN2008」に出展し、新しい防暑対策の最適解として「大空間給排気システム」を紹介する。従来の強制排気装置で熱気を排除するだけの換気ではなく、涼風機能付給気ファン「クールルーフファン」と排気ファン「ルーフファン」を併用することで、工場の抱える暑さの解消を提案する予定。今回の展示会は、京都議定書第一約束期間の開始年に重なることから所謂CO2ダイエットに多くのスポットライトが集中することは間違いない。逆にいえば、これ以外の課題・対策技術に対する関心が希薄になる恐れもある。

熊切室長は「温暖化防止に向けたエネルギー消費の効率化、CO2排出削減は極めて重要なテーマの一つだと我々も認識している。ただ、我々の技術は、この地平線とはまた別の、しかし、確かに必要な冷熱・空調技術であると考えている。工場オーナーにとって、人材の確保(職場定着率の向上)、歩留まり改善、生産品質の維持・向上は、温暖化対策と同等の重要テーマ。この普遍的な課題を解決する〝本質的な技術〟が我々の技術であり、生産工場に有形無形の導入メリットをもたらす作業空間の快適化を徹底的にアピールしていく」と語った。



クールルーフファン